

## 卒業論文の要旨

論文題目	民族問題による低強度紛争とその管理について —ユーゴスラビア連邦の民族紛争を事例に—
氏名	和田玲央
メジャー	国際関係
<p>(要旨)</p> <p>本稿の問題意識は、実効的な民族対立の管理はいかにして可能であるかを考察する事である。</p> <p>この問題意識は「いかにしてナショナリズムを飼いならせるのか？」と同義であると考ええる。なぜなら、一定の領域内に複数の民族がただ存在していたとしても必ずしも対立に至るとは限らないし、考えづらい。そのため、民族対立に至る過程には複数の民族を互いに憎しみ合うよう扇動する「イデオロギー」的な「熱」のような何か加わり、その「熱」に憑りつかれた民族共同体を「構成していると自覚している人々」の間において、「ナショナリズム」運動が生じ、団結力を強化しようとする。問題は「ナショナリズム」は民族共同体の外部に「敵」を想定し、それを排斥する事で自らの共同体の団結力をより強固なものとする。</p> <p>そのためナショナリズムを飼いならせる事が出来れば、民族対立による紛争を管理する道筋が見えてくるのではないかと考える。</p> <p>本論においてはユーゴスラビアの民族紛争を事例として、ナショナリズムが高揚し、それが対立・紛争・分断していった過程を叙述する。そうする事で、一定の時期まで平和・友好的に共存していた諸民族が、どのような過程を経て相互殺戮の関係へと変貌していったのかを考察する。</p> <p>ユーゴスラビア社会主義連邦共和国の分裂の過程をみると、スロベニア・クロアチア型とボスニア・ヘルツェゴビナ型（以下ボスニアと略記）の二つの分裂タイプに分類できる。</p> <p>スロベニア・クロアチアにおける民族紛争では、比較的国内における民族分布が均質性を保っていたせいも、領土的権威を維持したままユーゴスラビアから分離独立していった。そのため、スロベニアにおいては10日、クロアチアでは約三か月という比較的短期間で紛争が停止した。対してボスニアでは約3年半以上と長期に渡り紛争が続き、また「民族浄化」などの殺戮行為が展開された。</p> <p>なぜボスニアにおいては上記のように悲惨な行為が展開されてしまったのだろうか。考えられる要因として、ボスニア内で活動していた各民族主義指導者は、それぞれ本国となる国から絶えず支援が行なわれていたこと。クロアチアのトウジマン大統領はボスニア域内クロアチア勢力指導者であるパボン、セルビアのミロシェビッチ大統領はカラジッチを支援した。</p> <p>そのため、ボスニアは完全に無秩序状態となった。国家秩序の消失は域内武装勢力にとっては軍事攻勢を「先制」的に行えば領土がより多く獲得出来るという誘惑にさらされる。またボスニア域内において数多くの武器・弾薬が存在していた事もボスニアの無秩序状態に拍車をかけた。</p> <p>上記のボスニア紛争から導き出せる「教訓」として、1、民族至上主義的指導者に対する警戒・規制を「民族自決」の原則より優位に置くこと。2、紛争地帯に武器（特に重兵器）ましてや大量破壊兵器が流入しないように兵器の管理に注意を払うこと。3、兵器の流入を防ぐため、主に周辺諸国を中心に紛争地帯一帯を囲い込むことで、外部からの兵器・資金・傭兵等の支援を阻止することが必要である。</p>	

(指導教員の推薦のコメント)